



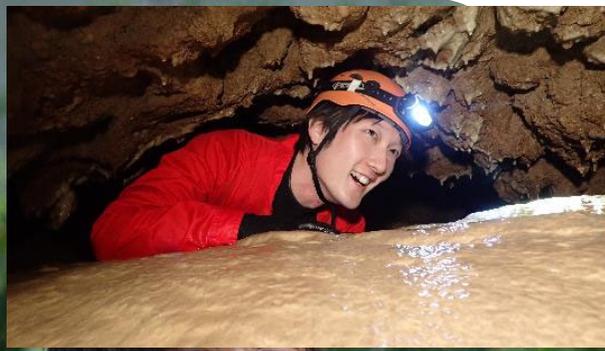
エコツーリズムのススメ

持続可能な地域創造のツールとして

一般社団法人日本エコツーリズム協会

坪根 悠太





自己紹介



坪根 悠太

- 大学卒業後2年間イギリスへ留学
- 帰国後、大学職員を経て2016年より日本エコツアーリズム協会に入職

主な担当

- エコツアーリズム推進計画等のコンサルティング
- 人材育成のための研修企画
- 保険代理店事務 等

一般社団法人日本エコツアーリズム協会について

沿革

1998年	エコツアーリズム推進協議会 設立
2003年	NPO法人日本エコツアーリズム協会 設立
2007年	エコツアーリズム推進法成立へ寄与
2018年	一般社団法人日本エコツアーリズム協会 設立

2001年 国連「MDGs」採択

2002年 国連「国際エコツアーリズム年」

2007年 観光立国推進基本法 施行

2008年 エコツアーリズム推進法 施行

2015年 国連「SDGs」採択

2017年 国連「持続可能な観光の国際年」

ミッション：エコツアーリズム推進法による環境保全と地方創生への貢献

観光振興・地域振興・環境保全・環境教育を推進する取り組みを展開

- ガイド養成講習会開催（日本各地で開催、修了証交付1,400人以上）
- エコツアーリズム大賞（環境大臣賞）（過去16回開催、受賞のべ157件）
- 学生シンポジウム（過去12回開催、参加人数延2,000人）
- 全国エコツアーリズム大会（日本各地で過去17回開催）など



今日の内容

1. エコツーリズムとは
2. 各地の事例
3. 地域におけるエコツーリズム推進のステップ
4. 企業連携による新たな取り組み

A group of hikers is in a forest. In the foreground, a person with long brown hair, wearing a grey sweater, is leaning over a large log covered in green moss, looking at something on the ground. Behind them, another person in a purple jacket and a hat is also looking down. In the background, another person is visible, and the forest has trees with some yellowing leaves, suggesting autumn. The text "1. エコツアーリズムとは" is overlaid in the center of the image.

1. エコツアーリズムとは

地域循環共生圏（日本発の脱炭素化・SDGs構想）

サイバー空間とフィジカル空間の融合により、地域から人と自然のポテンシャルを引き出す生命系システム

Ver. 26

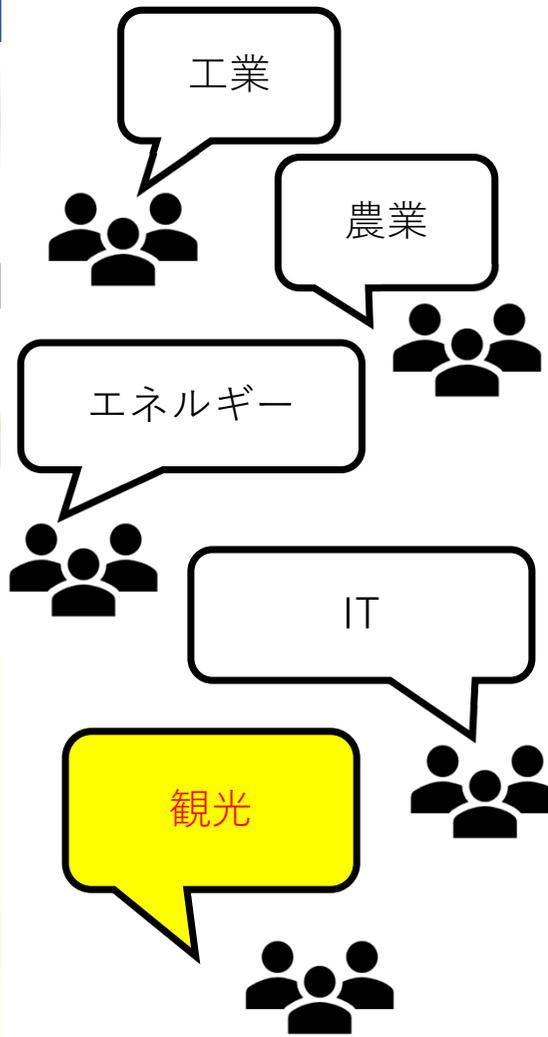
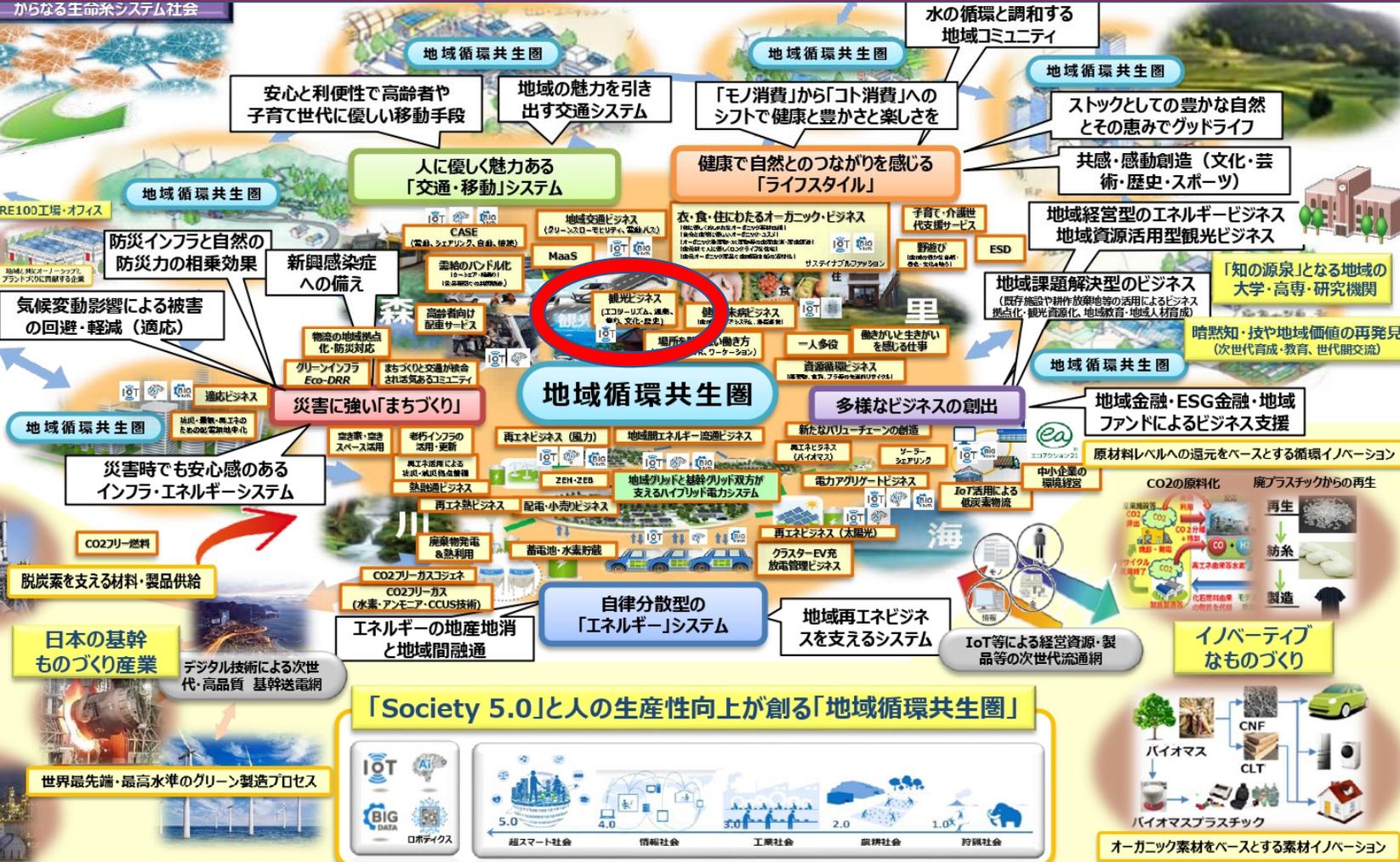


「自立分散」×「相互連携」×「循環・共生」= 活力あふれる「地域循環共生圏」⇒「脱炭素化・SDGsの実現、そして世界へ」
 「オーナーシップ」 「ネットワーク」 「サステナブル」 「人間の安全保障、次世代・女性のエンパワーメントを基盤に」

➡ 新たな価値とビジネスで成長を牽引する地域の存立基盤

人々が健康で活き活きと暮らし幸せを実感することで、地域が自立し誇りを持ちながらも、他の地域とも有機的につながることにより、国土の隅々まで豊かさが行きわたる。

からなる生命系システム社会



観光が地域に果たす役割

観光立国推進基本法（2007年）

「住んでよし、訪れてよしの国づくり」

前文

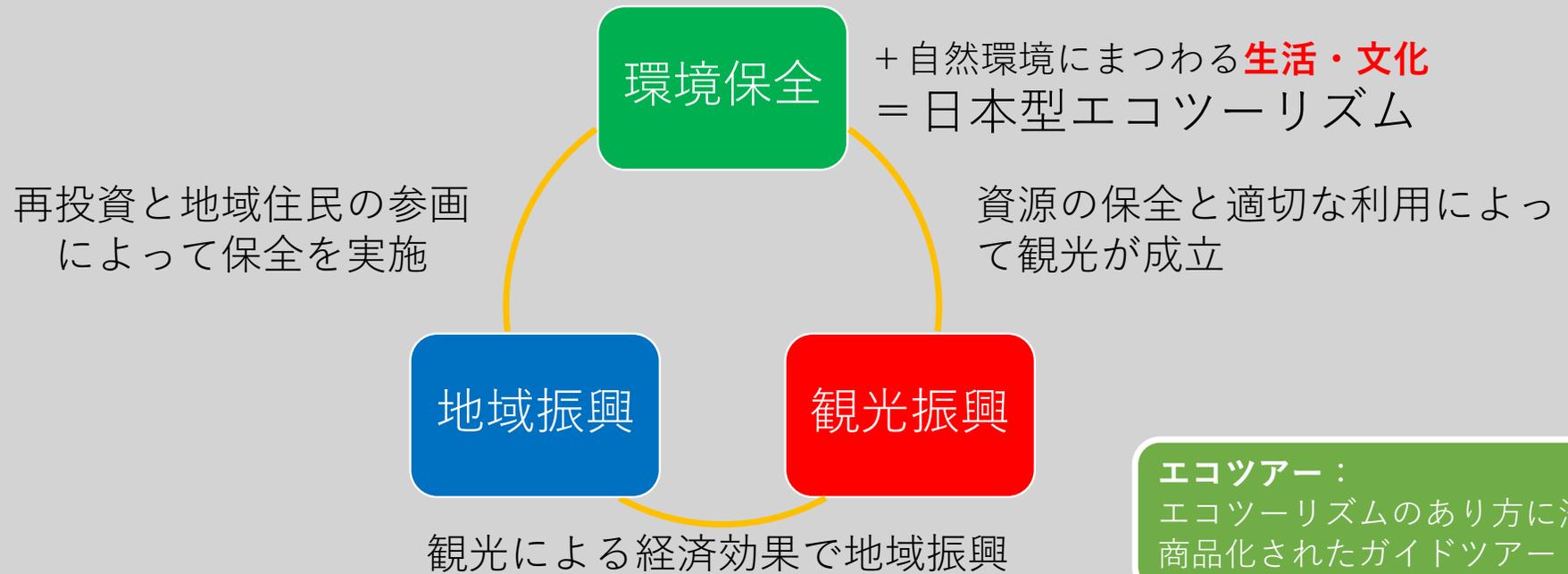
観光は、国際平和と国民生活の安定を象徴するものであって、その持続的な発展は、恒久の平和と国際社会の相互理解の増進を念願し、（中略）**地域経済の活性化、雇用の機会の増大等国民経済のあらゆる領域にわたりその発展に寄与するとともに、健康の増進、潤いのある豊かな生活環境の創造等を通じて国民生活の安定向上に貢献する**ものであることに加え、国際相互理解を増進するものである。

“**地域における創意工夫を生かした主体的な取組み**を尊重しつつ、地域の住民が誇りと愛着を持つことのできる活力に満ちた地域社会の持続可能な発展を通じて国内外からの観光旅行を促進することが、将来にわたる豊かな国民生活の実現のため特に重要である”

観光は21世紀における日本の重要な政策の柱

エコツーリズムとは

3つの要素の融合を実現する観光の“あり方”



「環境（地域）保全」を軸とし、「民間の経済力」を活用した、地域の自立による
「まちづくり」

エコツアーリズム推進法(2008年)

管轄：環境省、国土交通省、農林水産省、文部科学省

市町村がエコツアーリズム推進の計画（エコツアーリズム推進全体構想）を策定し、国から認定を受けることができる制度

主なできること・メリット

- ・ 特定地域への立入等の規制
- ・ 規制の緩和（送迎に関する）
- ・ 協議会への公的支援

エコツーリズム推進法(2008年)

旅して観光地を訪れることは、環境保全の意識を高めるためには有効な手段のひとつ。

→エコツーリズムは環境教育のツールとしても有用

そのためには自然、生活、文化も取り入れた、魅力ある楽しい新たな観光（の方法）を提案し、発信することが地域の大切な役割である

→エコツーリズムの取り組みの主体は地域であり、民間の経済力を活用するためには、地域の目線だけではなく市場が何を考えているのかを知り、取り入れ、社会に対して提案・発信する必要がある。

SDGsと地域循環共生圏



エコツーリズムはこれらの目標に対して多くの具体的な答えを持っている



2. 各地の事例

全国各地への広がり

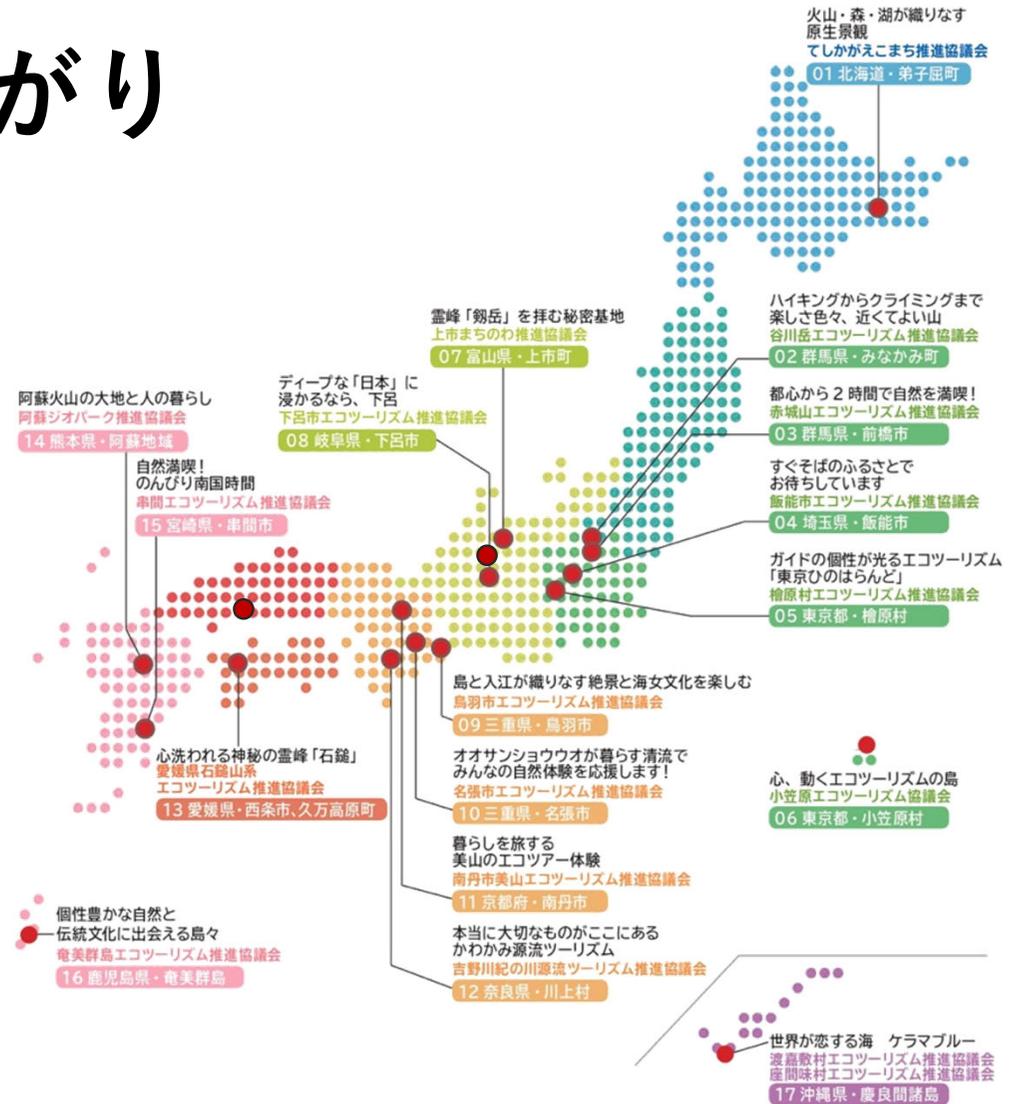
19地域が認定

10地域以上が認定を目指す

(2021年8月現在)

類型：

1. 世界レベルの豊かな自然
例：小笠原・屋久島・奄美・阿蘇 など
2. 多くの来訪者が訪れる観光地
例：伊勢志摩鳥羽・下呂温泉・宮島など
3. 里地里山・身近な自然
例：檜原・飯能・南丹市美山 など



事例①

長野県軽井沢市：保全の取り組みをエコツアー化

株式会社ピッキオ <https://picchio.co.jp/>

クマを守るお仕事体験 こどもインターンシップ

通常業務として行なっているクマの調査や被害対策などの保全活動を、子供向けの体験プログラムに昇華

保全活動の動画（日本語字幕あり）：<https://youtu.be/PPBpdXBAIgs>



第1回エコツアーリズム大賞受賞

事例②

三重県鳥羽市：漁観連携・地産地消の促進

海島遊民くらぶ <https://www.oz-group.jp/>

「鳥羽の台所つまみ食いウォーキング」

「海からの恵み」をテーマに伊勢志摩産品の老舗問屋などを訪ねて回る。

参考動画：<https://youtu.be/a38GFTpkqz8>



エコツーリズム推進機構認定地域



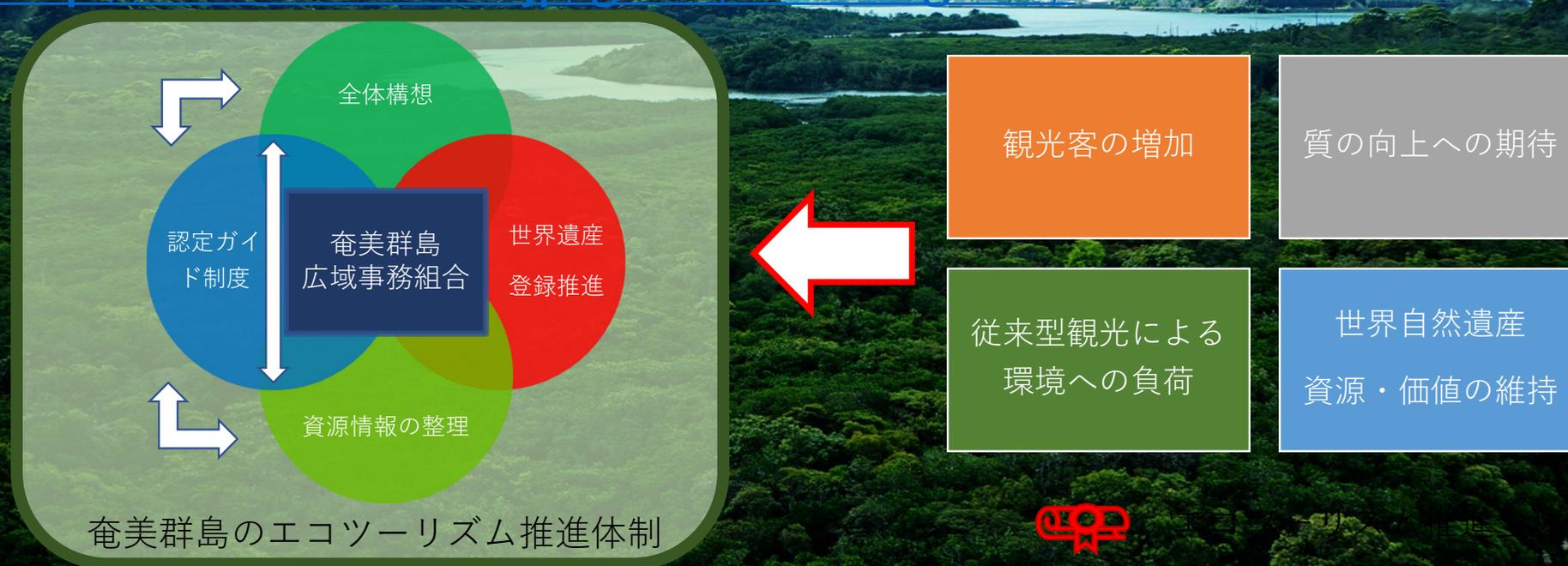
第5回エコツーリズム大賞 受賞

国内事例③

奄美群島：一体的な推進体制の構築

国立公園指定、世界遺産登録への機運の高まりに合わせて、観光客の受け入れ体制と環境負荷を管理する仕組みを構築した。

<http://www.amami.or.jp/guide/ecotourguide/>



取り組み事例の参考

【認定地域の取り組み】

エコツーリズムのススメ（環境省HP）

<https://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/index.html>

さあ楽しもうエコツーリズム（環境省作成一般向け広報冊子）

<https://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/pamphlet/pdf/enjoyecotour.pdf>

【全国各地の取り組み】

エコツーリズム大賞

<https://ecotourism.gr.jp/award/>

会報誌「エコツーリズム」（会員様限定・バックナンバーは全号HPで閲覧可）

<https://ecotourism.gr.jp/activities/publications/backnumbers/>



3. 地域におけるエコツアーリズム推進のステップ

取り組みのステップ

エコツーリズムの5つの主体



取り組みのステップ

フェーズ1 推進体制の構築

- 地域の機運醸成
- 協議会の設立
- 全体構想の策定

フェーズ2 調査・教育・普及

- 地域資源調査
- モニタリング手法の検討
- 体験プログラムの企画制作
- 人材の育成

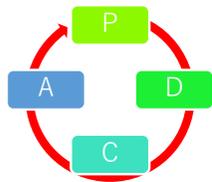
フェーズ3 事業化

- マーケティング
- 販売促進

フェーズ4

改善・拡大

- 顧客FB
- 新規参入
- 資源モニタリング継続
- 全体構想の見直し
- **企業連携**



An underwater photograph showing several divers in a blue environment. In the foreground, a diver in a black wetsuit is seen from the back, wearing a large white scuba tank with a circular logo that includes the letters 'JDA'. The diver is holding a metal frame structure. In the background, another diver in a blue wetsuit is visible, also working with the structure. The water is clear with some bubbles and sediment. The overall scene suggests a technical diving or construction project underwater.

4. 企業連携による新たな取り組み

市場の変化

消費者のSDGsに対する意識の高まり

- SDGsの認知度が2年前から40ポイント増加
- 50%以上の人が「SDGsの達成」や「社会課題の解決」に向けて取り組んでいる企業の製品・サービスを使用・購入したいと回答
- 製品・サービスを選ぶ際、その他の機能や内容が同じであれば、価格が高くても社会をより良くすることにつながる商品・サービスを選択したいと回答している人は、10代、20代において20%を超えており、価格よりも社会をより良くすることにつながることを選択する傾向が、他の世代よりも強い

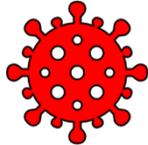
[損保ジャパン株式会社「SDGs・社会課題に関する意識調査」](#)より(2021年8月)



市場の変化

日本と世界のSDGsに対する意識の高まり

観光による環境保全
地域社会への貢献
エコツーリズム



2020年
コロナショック



2021年
東京オリンピック
パラリンピック



2025年
大阪関西万博



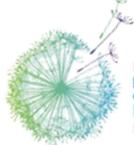
2030年
SDGs目標達成



2020年
SDGs達成のための『行動の10年』
スタート



2017年
持続可能な観光の国際年



2017
INTERNATIONAL YEAR
OF SUSTAINABLE TOURISM
FOR DEVELOPMENT

企業や自治体の取組みの広がり

ニューノーマル時代、企業自身のSDGsの取り組みを、環境に取り組む地域を応援することで「見える化」したいという企業のニーズが増えている。

→SDGs・CSR・地域循環共生圏構築と地方創生への取組
エコツアーを利用したワーケーション・企業の社員教育など

業界の課題

- 労働環境（季節性）
 - 雇用形態と事業規模
 - 地域内の取り組みに終始
 - 地域人材の不足
 - サービスと対価の意識
 - 価格競争で訴求する観光業界の体質
 - 社会環境の変化による影響
- など



地域が持続的な発展と資源保全を継続していくためには、**産業としての自立が必要**。
 そのために地域は**時代の流れを追い風として、社会のニーズに向き合い、企業と連携して取り組みを進めることが不可欠**。

「自立分散」 × 「相互連携」 × 「循環・共生」 = 活力あふれる「**地域循環共生圏**」 ⇒ 「**脱炭素化・SDGsの実現、そして世界へ**」
「オーナーシップ」 「ネットワーク」 「サステナブル」 「人間の安全保障、次世代・女性のエンパワーメントを基盤に」

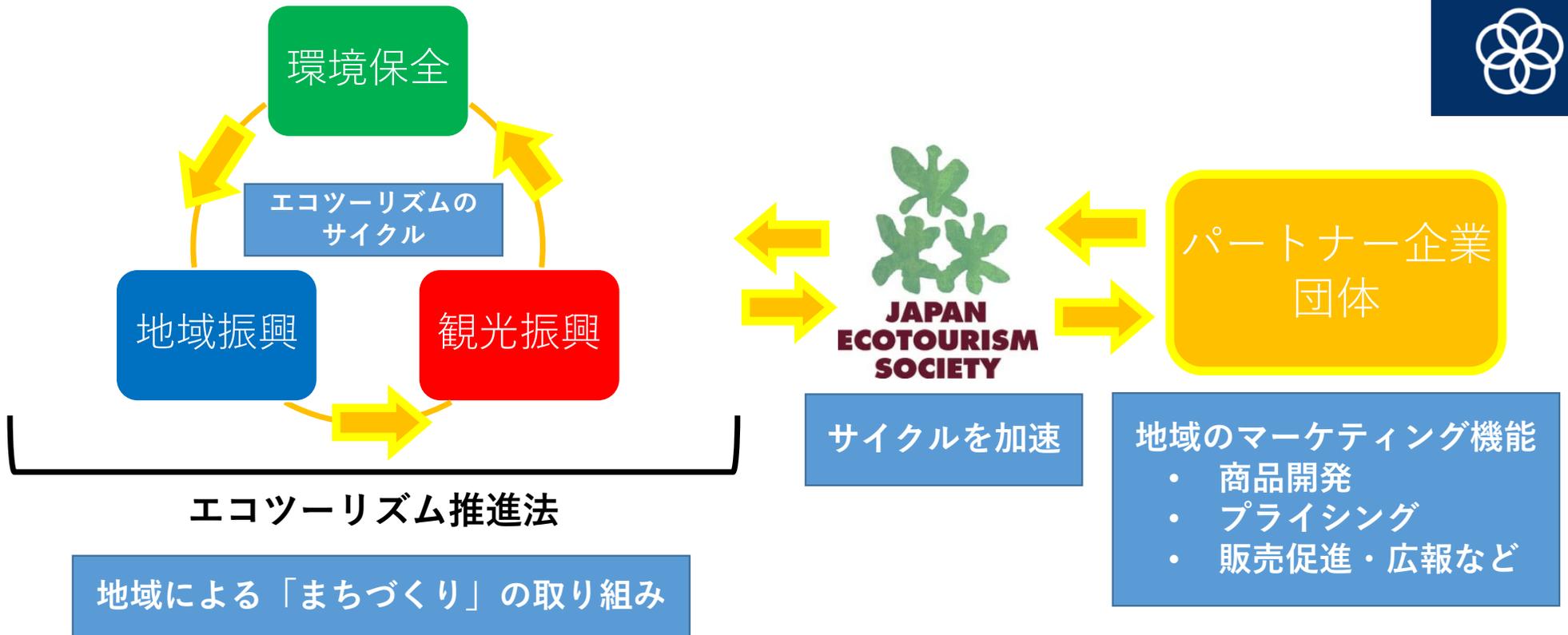
➡ **新たな価値とビジネスで成長を牽引する地域の存立基盤**

人々が健康で生き生きと暮らし幸せを実感することで、地域が自立し誇りを持ちながらも、他の地域とも有機的につながることで、国土の隅々まで豊かさが行きわたる。

企業との連携で地域の取り組みを次のステップへ

連携における役割のイメージ

17 パートナースhipで
目標を達成しよう



地域と企業の連携事例①

JALPAK 

株式会社ジャルパック様

ダイナミックパッケージ ツアー代金のうち500円を弊会を通じて各団体へ寄付

奄美群島広域事務組合 様

奄美群島の世界自然遺産登録の推進や自然環境の保全等に活用



知床財団 様

ヒグマの生態を次世代へと伝える事業「クマ学習」に活用

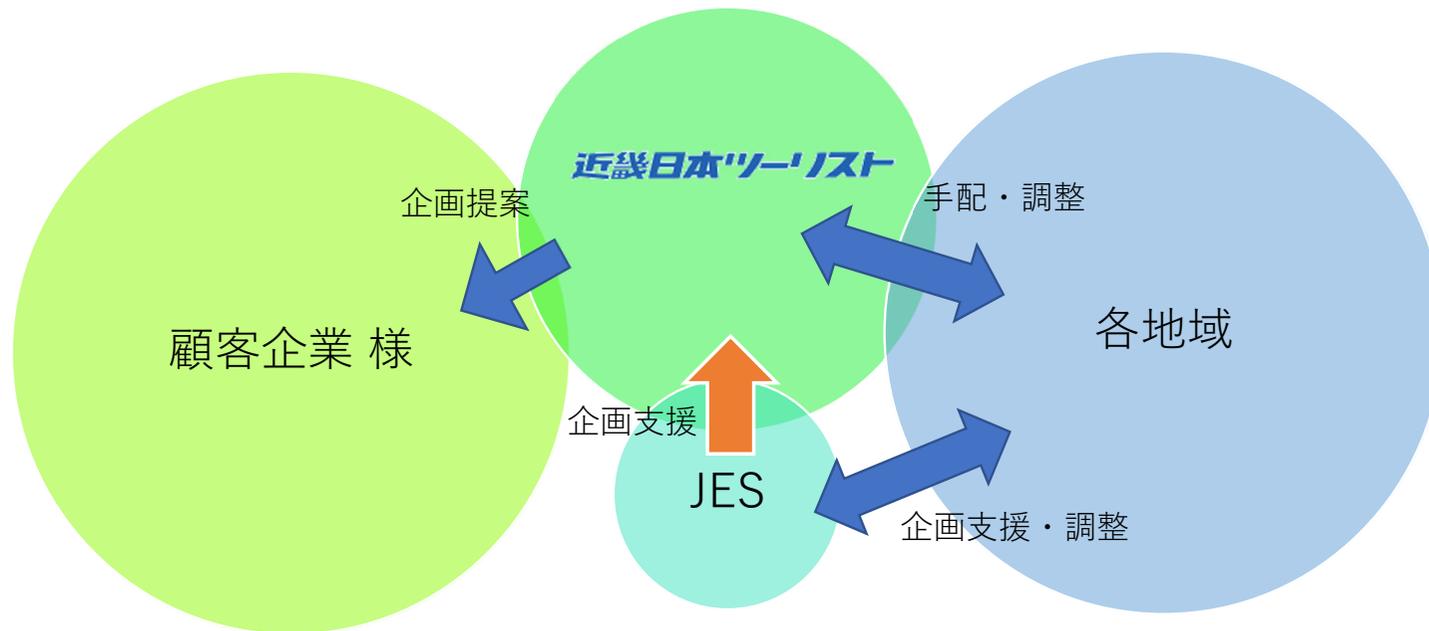


地域と企業の連携事例②

近畿日本ツーリスト

近畿日本ツーリスト様

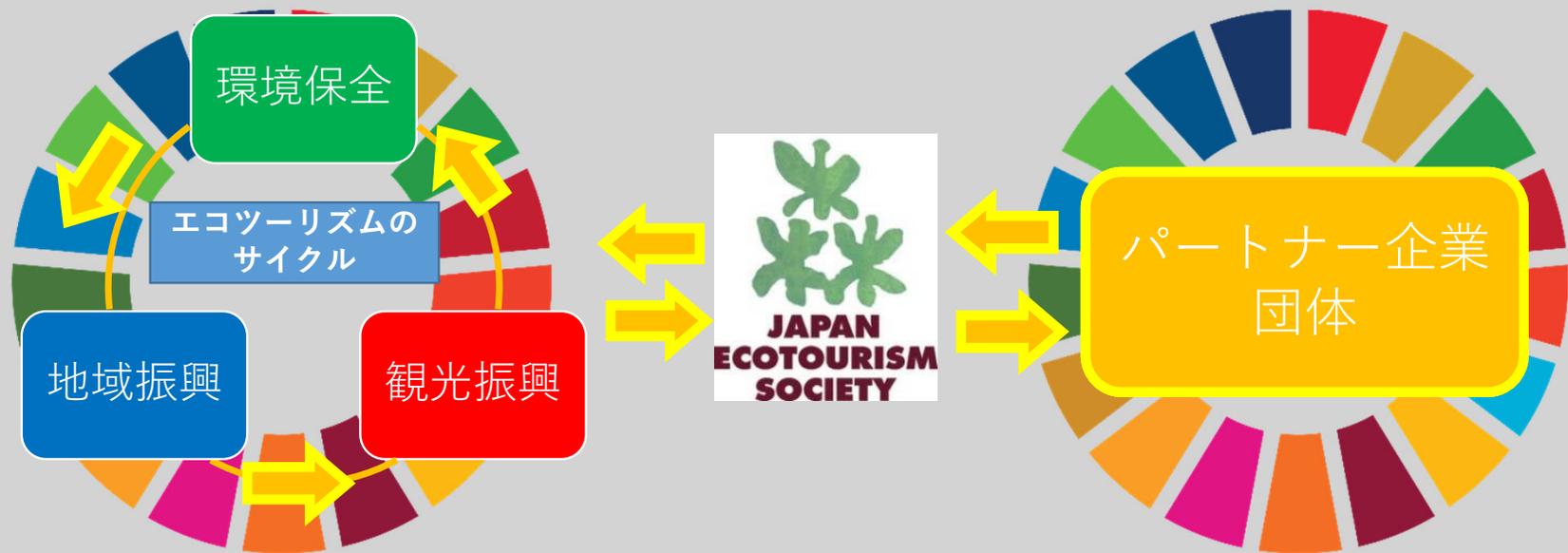
企業のSDGs研修をエコツーリズムで企画・提案



これからの協会の活動方針

ミッション：エコツーリズム推進法による環境保全と地方創生への貢献

- 地域の取り組みを応援する**企業や団体と連携を促進**することで地方創生を実現
- 地域の取り組みにおける**すべてのフェーズ**に対して**支援・促進を実施**





ご清聴ありがとうございました

ご質問への回答

- これから求められる、提供していくべきエコツーリズムとは？(持続可能であるエコツーリズムは、観光客にとって反復性はあるのか、また来たいと思えるようなものになっているのか、ツーリズムの中のマイナージャンルになっていないか)
- 中南米事情、アグリツーリズム、また、国内のエコツアーノウハウを海外へ展開したい団体さん等おられるでしょうか？
- Virtualエコツーリズムの現状と可能性（どれだけ地域にお金を落とせるか）
- 補助金に依存しないエコツーリズムの可能性